

ブラジル・マクロ経済情勢

1. 経済情勢（4月発表の経済指標）

- (1) 伯中央銀行が週次で発表しているエコノミスト等への調査（Focus 調査）に関して、4月30日時点で、GDP成長率予測については、2021年は3.14%で前週より0.05%上昇し、2022年は2.31%で前週より0.03%減少した。インフレ率については、2021年は5.04%で前週から0.03%上昇、2022年は3.61%で前週より0.01%上昇した。
- (2) 2月の鉱工業生産指数は、前月比▲0.7%を記録。前年同月比は+0.4%を記録した。
- (3) 2月の小売売上高は前月比+0.6%、前年同月比▲3.8%を記録した。
- (4) 全国の失業率（2020年12月～2021年2月）は14.4%となり、9～11月の移動平均14.1%より0.3%悪化。前年同期比（2020年12～2021年2月）で2.8%上昇した。
- (5) 3月の拡大消費者物価指数（IPCA）は0.93%となり、前月の0.86%から0.07%増加。2015年以来、3月の数値として最大を記録した。直近12カ月累計は6.10%となった。
- (6) 2021年2月の貿易収支は65.3億ドルの黒字。2021年1～3月の累計は79.08億ドルの黒字。

2. 経済政策等

- (1) 3月末に議会承認された2021年連邦政府予算が、政府と議会との間の調整を経て、4/22にボルソナーロ大統領に裁可された。その際、198億リアル分の支出について拒否権を行使した他、政府の裁量的支出の一部について支出停止（Bloqueio）をした。
- (2) 4/7～4/9にかけて伯インフラ省が空港、鉄道及び港湾分野における民営化入札を集中的に開催し、実施された入札は全て落札され、合計100億リアル以上の投資を獲得した。
- (3) リラ下院議長等が税制改革、行政改革、国営企業の民営化等の5月以降の進展に言及。

3. 金融政策

次回金融政策委員会は5月4日及び5日。

4. 為替市場

- (1) 4月の為替市場は5.33～5.73リアル/ドルで推移。

- (2) 月の前半は 5.57～5.73 レアル／ドルで推移。政治リスクの高まりを嫌気し、一時 1 ドル 5.73 レアルまで売られるも、ワクチン接種加速と米国経済回復への期待感からレアルが買われた。
- (3) 月の後半は 5.33～5.58 レアル／ドルで推移。2021 年連邦政府予算の承認、税制改革の進展への期待や米国経済動向等の外部要因を好感し、レアルが買われ、レアル高傾向へ。

5. 株式市場

- (1) 3 月の株式市場は 115,253～121,113 ポイントで推移。
- (2) 月の前半は米国の景気回復期待や原油高、ワクチン追加購入等を好感し、120,000 ポイント台まで株価回復。
- (3) 月の後半は国内での 2021 年政府予算案の大統領裁可、政治リスクの高まり、米国経済動向等の影響により、120,000 ポイントを挟んで一進一退の展開。